

西洋史専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
西洋史特論Ⅱ	イングランド人の王ウィリアム1世とその世界	2	有光 秀行	前期 月曜日 4講時	
西洋史特論Ⅲ	アテナイ追放制度の展開とポリス社会の変容—祖国・身体・アイデンティティ	2	齊藤 貴弘	前期集中 その他 連講	
西洋史特論Ⅳ	ファシズム—ナチズム—スターリニズム	2	浅岡 善治	後期 水曜日 3講時	
比較文化史学特論Ⅰ	ソ連現代史研究の諸問題	2	寺山 恭輔	後期 金曜日 2講時	
西洋古代・中世史研究演習Ⅲ	ヨーロッパ中近世史料研究	2	有光 秀行	前期 月曜日 3講時	
西洋古代・中世史研究演習Ⅳ	ヨーロッパ中近世史料研究	2	有光 秀行	後期 月曜日 3講時	
西洋近現代史研究演習Ⅰ	欧米近現代史研究方法論	2	浅岡 善治	前期 月曜日 2講時	
西洋近現代史研究演習Ⅱ	欧米近現代史研究方法論	2	浅岡 善治	後期 月曜日 2講時	
比較文化史学研究演習Ⅰ	ソ連史文献研究Ⅰ	2	寺山 恭輔	前期 金曜日 4講時	
比較文化史学研究演習Ⅱ	ソ連史文献研究Ⅱ	2	寺山 恭輔	後期 金曜日 4講時	

科目名：西洋史特論Ⅱ／ European and American History (Advanced Lecture) II

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LM11403, 科目ナンバリング：LGH-HIS613J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：イングランド人の王ウィリアム 1 世とその世界
2. Course Title (授業題目)：William I , king of the English, and his world
3. 授業の目的と概要：この授業は、イングランド人の王ウィリアム 1 世（ノルマン人の公ギヨーム 2 世）の生涯をたどりながら、ブリテン諸島と大陸ヨーロッパの関係の変化など、11 世紀西北ヨーロッパ世界を理解することを目的とします。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this course is to understand the northwestern European society in the eleventh century through the life of William the Conqueror, king of the English and duke of the Normans.
5. 学習の到達目標：11 世紀西北ヨーロッパ世界におこった大きな変化を理解できるようになることと、歴史の中の人物について理解できるようになることを、目標とします。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aims of this course are understanding .great changes of the northwestern European society in the eleventh century and also understanding people in their historical context.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 誕生から 1040 年代前半まで (1)
 3. 同上 (2)
 4. 同上 (3)
 5. 1066 年まで (1)
 6. 同上 (2)
 7. 1066 年 (1)
 8. 同上 (2)
 9. 同上 (3)
 10. 1070 年代前半まで (1)
 11. 同上 (2)
 12. 同上 (3)
 13. 亡くなるまで (1)
 14. 同上 (2)
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

授業参加状況 (50 パーセント) とレポート (50 パーセント)。
9. 教科書および参考書：

教室で指示します。
10. 授業時間外学習：教室で指示する参考文献を参照しながら、予習・復習を必ずおこなうこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：西洋史特論Ⅲ／ European and American History (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：集中 単位数：2

担当教員：齊藤 貴弘

コード：LM98816, 科目ナンバリング：LGH-HIS614J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アテナイ追放制度の展開とポリス社会の変容—祖国・身体・アイデンティティ
2. Course Title (授業題目)：Understanding “exile” in the Ancient Greek World: A case of Athens
3. 授業の目的と概要：時として死後の埋葬禁止までも含む古代ギリシア（アテナイ）の「追放」概念は、市民共同体成員の死生観と祖国のアイデンティティと深く切り結ぶ。その「追放」制度（追放刑）の運用実態を歴史的展開に位置づけることで、ポリスの本質と都市国家アテナイの社会変容を捉える。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this course is to learn the variety of “exile” and understand the essential character of polis as a historical form of community through the institution of “exile” in the Athenian society.
5. 学習の到達目標：・死生観が「追放」制度と結びつき社会的規制力を持っていたことを説明できるようになる。
・史料を歴史的コンテクストから、分析し、読解することができるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The main objective of the lectures is to learn how institutions or concepts of “exile” connect with a view of life and death, and work in a society. Students also learn the way of reading historical documents in the historical context.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
※各回の構成や順序は、一部変更する場合があります。
 - 1) イントロダクション ポリスとは
 - 2) 問題の所在—古代ギリシアの「追放」の特殊性と「永久追放」
 - 3) ギリシア人の死生観と葬制
 - 4) アテナイの裁判制度と「追放」の多義性
 - 5) 有期追放刑と陶片追放
 - 6) ペルシア戦争の経験—「土地生え抜き」とアッティカの「身体化」
 - 7) アテナイ「帝国」支配—「エゴ」の膨張
 - 8) 「追放」の実態—事例分析
 - 9) アルギヌサイ海戦將軍弾劾裁判（1）バラトロンとは何か
 - 10) アルギヌサイ海戦將軍弾劾裁判（2）裁判の行方と死者のカタルシス
 - 11) ソクラテス裁判（1）
 - 12) ソクラテス裁判（2）
 - 13) 追放観の変容—前4世紀の諸相
 - 14) まとめ
 - 15) 試験と振り返り
8. 成績評価方法：
各回のコメントシート（30%）と第15回の授業時間中に理解度を確認する試験（70%）。
9. 教科書および参考書：
教科書：特に指定しない
参考書：
R. ガーランド（高木正朗・永都軍三・田中誠訳）『古代ギリシア人と死』晃洋書房，2008.
高島純夫・齋藤貴弘・竹内一博『古代ギリシアの暮らし』河出書房新社，2018.
10. 授業時間外学習：古代ギリシア史の概略を概説書などで踏まえておくこと。また、各回の講義の内容をそれまでの講義内容や、ギリシア史の展開と関連付けて理解するよう努める。分からない単語などは、参考文献を用いて調べること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：西洋史特論Ⅳ／ European and American History (Advanced Lecture) IV

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LM23303, 科目ナンバリング：LGH-HIS615J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ファシズムーナチズムースターリニズム
2. Course Title (授業題目)：Fascism-Nazism-Stalinism
3. 授業の目的と概要： ファシズム、ナチズム、スターリニズムの諸事象を通じて、20世紀ヨーロッパ史の展開過程を再検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The theme of this course is to reexamine the processes of European history in the 20th century through the Fascist, Nazist and Stalinist phenomena.
5. 学習の到達目標：・ファシズム、ナチズム、スターリニズムの観点から、ヨーロッパ近現代史の展開過程を把握する。
・ヨーロッパ近現代史の知見を元に、諸事象を「歴史的に」捉える思考様式を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：・To grasp the outline of the modern/contemporary European history from the viewpoint of Fascism, Nazism and Stalinism.
・To learn the ability to think "historically" on the basis of knowledge about history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 「ファシズム論」の現在
 2. ムッソリーニとファシズム(1)
 3. ムッソリーニとファシズム(2)
 4. ムッソリーニとファシズム(3)
 5. ヒトラーとナチズム(1)
 6. ヒトラーとナチズム(2)
 7. ヒトラーとナチズム(3)
 8. スターリンとスターリニズム(1)
 9. スターリンとスターリニズム(2)
 10. スターリンとスターリニズム(3)
 11. ファシズムとスターリニズムの「世界性」
 12. ファシストとナチの戦争
 13. スターリニストの戦争
 14. 第二次世界大戦とその後
 15. 総括と展望
8. 成績評価方法：

期末試験：100%。
9. 教科書および参考書：

特定のテキストは使用しない。さしあたり基本文献として、ファシズム研究会編『戦士の革命・生産者の国家』太陽出版、1985年；U・ヘルベルト『第三帝国——ある独裁の歴史』小野寺拓也訳、角川新書、2021年；G・ギル『スターリニズム』内田健二訳、岩波書店、2004年、を挙げておく。その他の個別的文献については、講義の進行に合わせて随時紹介していく。
10. 授業時間外学習： 「特論」ながら講義内容は平易を旨とするが、受講者が何らかの理由で本来備えるべき基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主體的な努力が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
質問等は随時。
研究室：文学研究科5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：比較文化史学特論 I / Comparative Studies of Cultural History (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：寺山 恭輔

コード：LM25205, 科目ナンバリング：LGH-HIS616J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ソ連現代史研究の諸問題
2. Course Title (授業題目)：Challenges in the study of Soviet Contemporary History
3. 授業の目的と概要：ソ連という国家が成立する契機となったロシア革命から 100 年以上経過したが、約 70 年にわたるソ連の歴史研究は、30 年前のソ連崩壊を契機に進展を遂げてきた。本授業ではソ連国内外におけるソ連史研究の歩みを振り返り、特にスターリン時代の極東地方に焦点をあて、その歴史を概観するとともに、今後の研究を展望する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：More than 100 years have passed since the Russian October Revolution formed the USSR in 1922. The Study of Soviet history, though it progressed over the first seven decades, advanced especially after its collapse 30 years ago. This course begins with tracing the history of Soviet Studies in and out of Russia for about a century, and focuses on the Soviet far eastern region of the Stalin era.
5. 学習の到達目標：1. ロシア国内外におけるソ連研究の歴史、現状を理解する。
2. スターリン時代のソ連極東地域の発展過程を理解する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. The Purpose of this course is to understand the history of Soviet Studies in and out of the Soviet union especially after the collapse of Soviet Union.
2. The Purpose of this course is to understand the development process of the Soviet far East during the Stalin Era.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. ソ連時代のソ連史研究
 3. ソ連崩壊後のソ連史研究
 4. ソ連極東とは アムール総督府時代
 5. ロシア革命とロシア極東 シベリア出兵 極東共和国
 6. 1920 年代のソ連極東 1
 7. 1920 年代のソ連極東 2
 8. 1930 年代のソ連極東 1. 満州事変とソ連指導部の対応、国防の要塞、兵士の反応
 9. 1930 年代のソ連極東 2. 鉄道輸送と極東への動員、鉄道の軍事化
 10. 1930 年代のソ連極東 3. 潜水艦・魚雷艇建造と極東への搬送
 11. 1930 年代のソ連極東 4. 中央と地方当局による発疹チフス蔓延防止措置
 12. 1930 年代のソ連極東 5. ダリストロイの形成 国境紛争
 13. 独ソ戦争時代のソ連極東 1.
 14. 独ソ戦争時代のソ連極東 2 1945 年の日ソ戦争と北方領土問題
 15. 第二次世界大戦後のソ連極東
 16. 総括
8. 成績評価方法：

レポート 50%、出席 50%
9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、授業の中で適宜、参考文献を紹介する。

No textbooks will be used. References are handed out at every class.
10. 授業時間外学習：紹介する参考文献を読んでもらうこと。

It is important for students to acquire preliminary knowledge to prepare for class by reading relevant information and books that are commonly available.
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
オフィスアワー 金曜日 16:00-17:00
事前にメールで連絡しておくこと。
Office hours are from 16:00 to 17:00 on Friday. Make an appointment in advance via e-mail .

科目名：西洋古代・中世史研究演習Ⅲ／ History of Ancient and Medieval Europe(Advanced Seminar) III

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

semester：1学期 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LM11306, 科目ナンバリング：LGH-HIS619J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヨーロッパ中近世史料研究
2. Course Title (授業題目)：Study in the Sources of Medieval and Early Modern European History
3. 授業の目的と概要：中近世ラテン語史料の理解力を涵養することを目的とします。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of the course is to deepen understanding of sources of medieval and early modern history.
5. 学習の到達目標：中近世ラテン語史料の高度な理解力を涵養する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of the course is to deepen understanding of sources of medieval and early modern history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
中近世史のラテン語史料について、その読解力の涵養および、先行研究から史料利用の可能性を学ぶことを、内容とします。第1回目の授業で具体的なテキストと進度について打ち合せし、それに基づいて2回目以降の授業をおこないます。
8. 成績評価方法：
授業参加状況による。
9. 教科書および参考書：
教室で指示します。
10. 授業時間外学習：予習および、特に予習で不明だった箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：西洋古代・中世史研究演習Ⅳ／ History of Ancient and Medieval Europe(Advanced Semina) IV

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LM21304, 科目ナンバリング：LGH-HIS620J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヨーロッパ中近世史料研究
2. Course Title (授業題目)：Study in the Sources of Medieval and Early Modern European History
3. 授業の目的と概要：中近世ラテン語史料の理解力を涵養することを目的とします。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of the course is to deepen understanding of sources of medieval and early modern history.
5. 学習の到達目標：中近世ラテン語史料の高度な理解力を涵養する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of the course is to deepen understanding of sources of medieval and early modern history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
中近世史のラテン語史料について、その読解力の涵養および、先行研究から史料利用の可能性を学ぶことを、内容とします。
第1回目の授業で具体的なテキストと進度について打ち合せし、それに基づいて2回目以降の授業をおこないます。
8. 成績評価方法：
授業参加状況による。
9. 教科書および参考書：
教室で指示します。
10. 授業時間外学習：予習および、特に予習で不明だった箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：西洋近現代史研究演習 I / History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LM11205, 科目ナンバリング：LGH-HIS621J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： 欧米近現代史研究方法論
2. Course Title (授業題目) : History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)III
3. 授業の目的と概要： 欧米近現代史に関する古典的著作ないし同時代文献を精読し、その内容について討論を行い、理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The themes of this seminar are to read classical books/documents relating the modern/contemporary European history, accurately and critically, and to find some hints for further historical research.
5. 学習の到達目標： ・テキストの内在的な理解による論旨の厳密な把握
・文献読解と討論を通じた研究能力・プレゼンテーション能力の向上。
6. Learning Goals(学修の到達目標)： ・To grasp contents of the original text accurately.
・To upgrade the abilities to present, debate and reserch.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス
 2. テキストの検討・討論(1)a
 3. テキストの検討・討論(1)b
 4. テキストの検討・討論(1)c
 5. テキストの検討・討論(1)d
 6. テキストの検討・討論(1)e
 7. 小括(1)
 8. テキストの検討・討論(2)a
 9. テキストの検討・討論(2)b
 10. テキストの検討・討論(2)c
 11. テキストの検討・討論(2)d
 12. テキストの検討・討論(2)e
 13. 小括(2)
 14. 中間的総括に向けての課題の整理
 15. 中間的総括
8. 成績評価方法：
出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%
9. 教科書および参考書：
テキストは開講後発表。その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。
10. 授業時間外学習： ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。
研究室：文学研究科棟 5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：西洋近現代史研究演習Ⅱ／ History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LM21205, 科目ナンバリング：LGH-HIS622J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： 欧米近現代史研究方法論
2. Course Title (授業題目)：History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)Ⅲ
3. 授業の目的と概要： 欧米近現代史に関する古典的著作ないし同時代文献を精読し、その内容について討論を行い、理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The themes of this seminar are to read classical books/documents relating the modern/contemporary European history, accurately and critically, and to find some hints for further historical research.
5. 学習の到達目標：・テキストの内在的な理解による論旨の厳密な把握
・文献読解と討論を通じた研究能力・プレゼンテーション能力の向上。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：・To grasp contents of the original text accurately.
・To upgrade the abilities to present, debate and reserch.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス
 2. テキストの検討・討論(1)a
 3. テキストの検討・討論(1)b
 4. テキストの検討・討論(1)c
 5. テキストの検討・討論(1)d
 6. テキストの検討・討論(1)e
 7. 小括(1)
 8. テキストの検討・討論(2)a
 9. テキストの検討・討論(2)b
 10. テキストの検討・討論(2)c
 11. テキストの検討・討論(2)d
 12. テキストの検討・討論(2)e
 13. 小括(2)
 14. 総括に向けての課題の整理
 15. 総括
8. 成績評価方法：
出席30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%
9. 教科書および参考書：
テキストは開講後発表。その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。
10. 授業時間外学習： ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。
研究室：文学研究科棟5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：比較文化史学研究演習 I / Comparative Studies of Cultural History (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

semester：1 学期 単位数：2

担当教員：寺山 恭輔

コード：LM15404, 科目ナンバリング：LGH-HIS623J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ソ連史文献研究 I
2. Course Title (授業題目)：Reading texts of Russian and Soviet History I
3. 授業の目的と概要：ロシア・ソ連史に関するロシア語及び英語文献を読むことで、ロシア語及び英語の解読能力の向上をはかる。受講者が交代で、自分の研究分野に関する論文の要旨を発表し、それに関して出席者全員で議論する形で授業を進める。ロシア語に関しては、受講生のロシア語読解力のレベルに応じて、適宜テキストを選択する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read Russian and English texts about Russian and Soviet history with accuracy and rapidity and expand their vocabulary. In each class the person in charge will present the main points of the text and all of attendees will evaluate and discuss it.
Text selection depends on the level of the students.
5. 学習の到達目標：1. 研究文献を読むことにより、ロシア・ソ連史を研究するために必要なロシア語及び英語の読解力を高める。
2. 参考文献の探し方、引用の方法も同時に学ぶ。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. Students will develop the ability to understand Russian and English by text reading.
2. Students will simultaneously learn the practical method to inquiry and cite the References.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
担当となる受講者は、事前に自分の関心のあるテーマに関するロシア語または英語の論文を選び、受講者全員に配布するとともに、発表当日には要旨をまとめて参加者の人数分配布し、発表すること。以下、毎週同じ。
8. 成績評価方法：
授業への出席 (50%) と報告の内容 (50%) によって判定する。
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。
No textbooks will be used.
10. 授業時間外学習：発表の担当でない受講者も、事前に配布される論文を読み、議論に参加すること。
It is important for students to acquire preliminary knowledge to prepare for class by reading relevant information and books that are commonly available.
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
オフィスアワー 金曜日 16:00-17:00
事前にメールで連絡しておくこと。
Office hours are from 16:00 to 17:00 on Friday. Make an appointment in advance via e-mail.

科目名：比較文化史学研究演習Ⅱ／ Comparative Studies of Cultural History(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 4講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：寺山 恭輔

コード：LM25404, 科目ナンバリング：LGH-HIS624J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ソ連史文献研究 Ⅱ
2. Course Title (授業題目)：Reading text of Russian and Soviet History Ⅱ
3. 授業の目的と概要：前期と同じ
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read Russian and English texts about Russian and Soviet history with accuracy and rapidity and expand their vocabulary. In each class the person in charge will present the main points of the text and all of attendees will evaluate and discuss it.
Text selection depends on the level of the students.
5. 学習の到達目標：前期と同じ
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. Students will develop the ability to understand Russian and English by text reading.
2. Students will simultaneously learn the practical method to inquiry and cite the References.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
前期と同じ
8. 成績評価方法：
前期と同じ
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。
No textbooks will be used.
10. 授業時間外学習：発表の担当でない受講者も、事前に配布される論文を読み、議論に参加すること。
It is important for students to acquire preliminary knowledge to prepare for class by reading relevant information and books that are commonly available.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
オフィスアワー 金曜日 16：00－17：00
事前にメールで連絡しておくこと。
Office hours are from 16:00 to 17:00 on Friday. Make an appointment in advance via e-mail .